

～地域の支え合い・福祉活動事例集～



地域の支え合い・福祉活動事例集 育てて つなごう 地域の絆

平成25年2月発行

発行／香川県




【連絡先】香川県健康福祉部健康福祉総務課
〒760-8570
高松市番町四丁目1番10号
TEL 087-832-3280 FAX 087-806-0209

編集／香川コミュニティソーシャルワーク実践研究会

【連絡先】香川県社会福祉協議会
〒760-0017
高松市番町一丁目10番35号
香川県社会福祉総合センター内
TEL 087-861-0545 FAX 087-861-2664

香川県
香川コミュニティソーシャルワーク実践研究会

目次

	はじめに	
	かがわ地域福祉活動マップ	・・・ 1
	地域福祉活動事例	
■ 事例1	小地域コミュニティ活動	原クリーンハイツのくらしを考える会 ・・・ 2
■ 事例2	地域の見守り活動 － 黄色い旗運動 MINAMINO 絆 －	南野自治会 ・・・ 3
■ 事例3	ふれあい・いきいきサロン － 東ふれあいクラブ －	観音寺市社会福祉協議会 観音寺ボランティア協議会 ・・・ 4
■ 事例4	綾川町介護予防サポーター活動	綾川町地域包括支援センター 綾川町介護予防サポーター ・・・ 5
■ 事例5	さぬき市子育ておうえんひろば ぴよんぴよんカフェ	さぬき市社会福祉協議会 登録ボランティア ・・・ 6
■ 事例6	防災活動を通じた「人・環境・絆づくり」	川西地区自主防災会 ・・・ 7
■ 事例7	「ガリック娘」でまちおこし	琴平町社会福祉協議会 ほか ・・・ 8
■ 事例8	多文化共生のまちづくり	日本語サークル「わ」の会 ・・・ 9

はじめに

香川県では、誰もが安心して暮らすために、地域で暮らす人どうしが関わり合いをもち、支え合えるまちづくりをめざした住民による地域福祉活動が各地で行われています。

このパンフレットでは、実際に県内で取り組まれている地域福祉活動のいくつかを紹介しています。

これを手にとられた方が、地域福祉活動について知り、考えていただき、「自分にもできるかも」「何か活動を始めてみたい」などと活動に参加したり、始めていただいたりするきっかけになればという願いをこめて作成しました。



かがわ地域福祉活動マップ



The map shows the following callouts:

- 事例6 丸亀市 P.7**: 防災活動を通じた「人・環境・絆づくり」 (川西地区自主防災会)
- 事例1 高松市 P.2**: 小地域コミュニティ活動 (原クリーンハイツのくらしを考える会)
- 事例2 東かがわ市 P.3**: 地域の見守り活動－黄色い旗運動 MINAMINO 絆－ (南野自治会)
- 事例3 観音寺市 P.4**: ふれあい・いきいきサロン－東ふれあいクラブ－ (観音寺市社会福祉協議会 ほか)
- 事例4 綾川町 P.5**: 綾川町介護予防サポーター活動 (綾川町地域包括支援センター ほか)
- 事例5 さぬき市 P.6**: さぬき市子育ておうえんひろばぴよんぴよんカフェ (さぬき市社会福祉協議会 ほか)
- 事例7 琴平町 P.8**: 「ガリック娘」でまちおこし (琴平町社会福祉協議会 ほか)
- 事例8 高松市ほか P.9**: 多文化共生のまちづくり (日本語サークル「わ」の会)

事例1 小地域コミュニティ活動

～いきいき生活支援のための小地域コミュニティ活動～

原クリーンハイツの暮らしを考える会

《活動の目的》

原クリーンハイツ自治会は、160戸約400名が暮らす大型の戸建て団地です。そのうちの約100名が高齢者で、近年、高齢者に対する福祉活動の推進が重要になってきたため、団地内ボランティアを結成し、次の思いをもって活動をしています。

- (1) 地域でできることは地域住民が支える
- (2) 高齢者の『いきいき生活』を支援する縁の下の力持ちに徹する
- (3) 地域住民の“和と絆”を深め、地域力の向上を図る

《活動場所》

自治会公民館、自治会公園、香川県立保健医療大学

《活動者と対象》

活動者：原クリーンハイツ自治会内のボランティア 12名
対象：主に65歳以上の高齢者

《主な活動》

- (1) 高齢者の見守り…女性部メンバーによる継続的な見守り訪問
- (2) 住民行事…おしゃべり会、花見、七夕花火祭り、敬老会、大学祭への参加、クリスマス会
- (3) 相談・助言…暮らしに関わる気軽な身の回りの相談・助言
- (4) 自己啓発支援…サロン、健康教室、健康チェック、生活安全教育
- (5) 広報誌の発行…暮らしを考える会の活動の広報紙「すまいる」発行（年4回）
- (6) 定例会の開催…月1回



活動の具体的な内容

見守り対象者リストとマップを独自できめ細かく作成し（高齢者一人暮らし、高齢者二人暮らし、家族と同居の高齢者）、それをもとに、メンバーが担当制で、高齢者の状況を把握し、行事やサロン等に参加できない方へも気を配っています。また、月1回定例会を開いて、声かけで気づいたことなどの情報交換と支援の内容の検討、主に高齢者を対象とした地域の催しの企画を行っています。



活動の効果

小地域での活動を続ける中で、暮らしを考える会には、家族からの相談が寄せられたり感謝の言葉をいただいたりすることがあります。例えば、ゴミ出しが難しくなったため地域で支援していた高齢女性が亡くなった際には、大阪に住むご家族から「母は、地域の方々に支えられ、住み慣れた地で晩年を迎えることができました。大変ありがとうございました」と言われ、メンバーの活動が評価されていることがわかります。

事例2 地域の見守り活動 —黄色い旗運動 MINAMINO 絆—

～住み慣れたまちで高齢者の毎日の暮らしを見守る～

南野自治会

《活動日》

毎日

《活動場所》

南野自治会エリア内

《活動者と対象》

活動者：1名の高齢者に対し、
2名の見守り支援員（自治会員）
対象：一人暮らし高齢者（災害時要援護者）13名

《主な活動》

声かけ・見守り運動



活動の目的と具体的内容

東かがわ市相生地区（旧引田町）974世帯のうち、南野自治会の世帯数は103で、高齢化率41.15%の地区ですが、3年後には50%になる見込みです。“自分たちのまちは自分たちの手で”との考え方を基本に、「住み慣れた地域でみんながいつまでも生活していきたい」「それなら自分たちで！」との思いで、平成21年度ごろから、地域に住む一人暮らし高齢者等の方に、住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けていただくことを目的に、近所の支援員（2人一組）が日々の生活の中で安否確認を行う「黄色い旗運動」が始まりました。この活動のルールとして、一人暮らし高齢者等の方は、朝起きた時点で勝手口などに旗（黄色）を掲げ、元気である意志表示をし、支援員はその旗が掲げられていることを確認するとともに、旗の出していない時は、高齢者からの無言のSOSと判断し、体調など変わった様子がないか伺うことにしています。

活動の効果

見守りに際して、自治会内の対象者の把握をするために独自で台帳を作成、整理しています。台帳には、自宅の見取り図に就寝場所を記載するなど、夜間や万一に備えた情報も入れています。この台帳が、災害時の要援護者登録台帳にもなっています。毎日の見守り活動を行うことで、お互いの信頼関係が築かれ、小さな困りごとを早めに解決できることにつながっており、一人暮らし高齢者等の方からの感謝の声が聞かれています。

「黄色い旗運動」は南野自治会が行う地域福祉活動のごく一部分です。南野自治会は、“地域全体のコミュニティ活性化”を大きく掲げて、定例会、サロン活動、自主防災、運動会・祭りなど小規模ではありますが、そこに住む一人ひとりがつながる“絆”をテーマに幅広い活動を行っています。



事例3 ふれあい・いきいきサロン ー東ふれあいクラブー

～高齢者・障がい者の気軽に集える居場所と生きがいづくり～

観音寺市社会福祉協議会
観音寺ボランティア協議会

《活動日》

月曜日～金曜日 13:30～15:00

《活動場所》

旧 観音寺東幼稚園遊戯室

《活動者と対象》

活動者：観音寺ボランティア協議会
対象：高齢者や障がい者（住所は問わず）



《主な活動》

- (1) 高齢者や障がい者が気軽に集える居場所（ふれあい・いきいきサロン）
軽体操、リハビリの話、健康な食べ物の話、ミュージックベル、唱歌、リズム遊び、写経、手芸など曜日ごとにプログラムを決めて、ボランティア講師とボランティアが実施
- (2) 会食 月2回
- (3) サロン以外の空き時間は、高齢者のクラブ活動（フラダンス、ヘルマンハーブ）の場として無料で貸し出しを行う

活動の目的と具体的内容

「東ふれあいクラブ」は、地域で孤立しがちな高齢者や障がい者の閉じこもり防止と介護予防を目的とした、ふれあいの居場所です。「誰かと話したい」「ちょっと出かけようかな」と思った時に、そこに行けば誰かがいて、気軽に集える居場所となっています。地域を問わず受け入れており、ボランティアによる毎日のプログラムに高齢者も障がい者も楽しんで参加しています。



ふれあい・いきいきサロンである「東ふれあいクラブ」は、利用者を含む地域住民やボランティアが協働して企画・運営しています。その活動の支援と普及促進を観音寺市社会福祉協議会が担っています。

活動の効果

月曜日から金曜日までプログラムを計画しているので、利用者が興味のあるものを楽しみに来るようになりました。継続する中で、参加者の特技を生かした抹茶や朗読のメニューもでき、内容が充実してきました。

毎日サロンを利用する人は、様子を日誌に記録することで、身体的変化がボランティアにわかるようになりました。初期の認知症の人に対しても、利用者どうしが自然にいたわり合う姿があり、家族からも喜ばれています。

同じ建物内にある隣の施設「地域活動支援センター あゆみ作業所（精神障がい）」や「小規模作業所 ぷちふらわあ（身体・知的障がい）」の利用者とも交流があり、高齢者と仲良くレクリエーションを楽しんでいます。

事例4 綾川町介護予防サポーター活動

～住み慣れたまちでいきいきと、自分らしく暮らし続けるために
地域包括ケアの輪・話・和をひろげましょう～

綾川町地域包括支援センター
綾川町介護予防サポーター

《活動日》

毎月1回 運営委員会を開催。班の活動や地域活動は随時。

《活動者》

綾川町地域包括支援センターが行う研修（まなびあい講座：全8回）を修了し、町長から委嘱を受けた介護予防サポーター

《主な活動》

- (1) 4つの班活動（「いっぶく広場（高齢者集いの場）班」「資源マップ班」「おはなし（傾聴）ボランティア班」「転倒予防（介護予防の普及と保健事業のサポート）班」）
- (2) ステップアップ研修の開催（年3回程度）
- (3) ニュースレター「わくわくネットワーク」づくり（年3回程度）
- (4) 小地域活動（いきいきサロンボランティア、自治会内での声かけ・見守り活動）
- (5) 町内行事でのボランティアや認知症ケア啓発劇（綾川まちかど劇団）を行う

活動の目的と具体的内容

介護予防サポーターの活動は、「高齢者が住み慣れたまちでいきいきと暮らし続けるための支援」という意味だけでなく、「サポーター自身の介護予防や生きがいづくり、高齢者としての前向きな生き方を考える良い機会にもなり、お互いに元気をもらう」ことにもなっています。介護予防サポーターは、研修修了後も定期的・継続的に上記のような活動に参加しており、その活動を地域包括支援センターも全面的にバックアップしています。



活動の効果

月1回の運営委員会で班活動の報告や、活動内容の打合せを行います。定期的な活動を行うことが、サポーターどうしの刺激となり、個人でサロンを立ち上げる方や、2人一組でチームを組んで高齢者の自宅を訪問する活動も始まりました。各班活動では、メンバーの工夫も主体的に行われています。例えば、「資源マップ班」では、社会資源の調査や更新のみならず、買物に困っている高齢者の実態調査をして公開するなど新しい取り組みを生み出しています。町内各所で介護予防サポーターによる活動の輪が広がり、住民力が高まることで、お互いに元気をもらい合える地域になりつつあります。



事例5 さぬき市子育ておうえんひろば ぴよんぴよんカフェ

～地域と子育て家族をつなぐ交流の場～

さぬき市社会福祉協議会
登録ボランティア

《活動日》

毎週水曜日 10:00～14:00

《活動場所》

旧 志度幼稚園末分園

《活動者と対象》

活動者：事業の目的に賛同し登録した
地域ボランティア6名
対象：子どもと子育て中のパパ、ママ、
孫育てしている祖父母 など



《主な活動》

- (1)子どもと一緒にゆったりできる居場所とランチの提供（週替わりメニュー）
- (2)わくわくday（子どもたち参加の行事）の実施：月1回 第3水曜日

活動の目的と具体的内容

さぬき市内の子どもたちを地域で豊かに育てることができるよう支援することを目的としています。ボランティア考案の週替わりランチと居場所を提供し、親子及び孫と祖父母の交流の場、ゆっくり食事をしたり、話ができたりと楽しい時間を過ごすことができる場となっています。安価でおいしい手づくりのランチは人気があり、「レシピを教えて欲しい」と若いお母さん方から言われることもあります。

わくわくdayでは、地域ボランティアの方にお願ひし、読み聞かせ・手遊び・楽器演奏・マジック・腹話術・パネルシアター・リズム遊び・クッキングなどをしていただき、毎回好評です。

ボランティアの活動支援と、場所の提供や広報などをさぬき市社会福祉協議会が担っています。



活動の効果

「ぴよんぴよんカフェ」に定期的に参加してくれる親子も増え、母親どうしが子育てに関する情報交換を行ったり、子ども好きなボランティアさんと談笑したりと、親子で顔見知りの方に会えるのを楽しみに来てくれているのがわかります。「ぴよんぴよんカフェ」に来た親子が、末地区での行事に参加することもあり、子育て世代が地域とのつながりをもちながら安心して子育てを行える雰囲気ができつつあります。

また、カフェで提供するおやつは、さぬき市内の障害者就労支援施設から購入しており、間接的に障害のある方の就労の支援にもなっています。

ぴよんぴよんカフェは、地域と子育て家族をつなぐ交流の場・絆をつくる場になっています。

事例6 防災活動を通じた「人・環境・絆づくり」

～防災を自身のこととしてとらえ、
愛着をもって住めるまちづくりを～

川西地区自主防災会

《活動者》

川西地区自主防災会

《主な活動》

- (1) 将来の防災を担う「人づくり」
 - 子どもへの防災教育と共同の防災訓練の実施
小学校高学年・中学生・高校生にそれぞれ、避難所の設営訓練や土のうづくり、応急手当訓練と要援護者の搬送訓練、ロープ結束訓練やロープを使った救助訓練を実施
- (2) 防災に関する「物（環境）づくり」
 - 香川大学の支援のもとでの「ハザードマップ」や「防災の手引き」の作成
 - コミュニティセンターに無線機、発電機、救出用資機材、車輛、食料、水などを備蓄
- (3) 「地域の絆づくり」と防災意識の啓発
 - 自治会長と連携して要援護者の情報をコード化して把握・管理
 - 地域内事業所へ依頼し、避難スペース、食料・日用品などの物資提供の協定を結ぶ
 - 防災意識啓発行事の開催（防災フェアを連動させたウォーキング大会、炊き出しを想定した芋炊き大会）

活動の目的と具体的内容

川西地区自主防災会では、将来への人材育成と、平日の昼間に災害が発生した場合への対応という観点から、児童・生徒に対する防災教育に力を入れています。また、地区においても、無線機を使った情報伝達訓練を月1回行ったり、夜間の訓練を実施したりして、万一の災害に備えています。



活動の効果

香川県は災害の少ない土地柄のため、県民の意識の中で防災意識が薄い傾向にあります。

そのような中、川西地区では、様々な工夫を凝らした防災活動を行っています。小学生からお年寄りまで幅広い世代が活動に熱心に参加しており、その取り組みは県内全体に広がっています。

また、防災訓練や防災広報誌の発行、イベント実施などを通じ、地域の活動が活発になるにつれ、住民一人ひとりが、防災を自身のこととしてとらえ、日常生活における防災意識が高まりつつあります。



事例7 「ガリック娘」でまちおこし

～地域の力を集結し、地元農産物を使った新商品開発とまちおこしを～

琴平町社会福祉協議会 ほか

《実施主体》

琴平町社会福祉協議会、JA香川象郷支店、琴平町

《ガリック娘 商品化の過程》

福祉・教育・観光業を巻き込んだ農商工連携商品の開発とまちおこし

- 琴平町社会福祉協議会 …… 一次加工・販売を担当。栽培と一次加工作業を障害者作業所へ委託し、障害者の自立支援の場を提供。ほ場を借り受け、児童との交流を含めた活動に取り組む。
- 地元生産者・JA …… にんにく栽培の支援を行う。生産・出荷と乾燥を担当。
- 県内製造会社 …… ガリック娘の製造
- 障害者作業所 …… にんにく加工・ラベリング作業
- 琴平町観光協会 …… 販売・使用の全面協力
- 高校生・町民・小学校 …… 高校生がラベルデザインとネーミングの考案、デザインは町民が選定。小学校では、にんにくをテーマに郷土学習をする。



活動の目的と具体的内容

にんにくの生産量において日本第2位を誇る産地である琴平町。香川県が平成19年度に実施した生産者と商品加工業者を結び付けるマッチング事業で、県内の業者から「琴平町のにんにくを使ってガリックオイルを作りたい」という申し出がありました。折しも、琴平町観光協会では「琴平町オリジナルの特産品の創出」を、にんにく生産者は「規格外の有効活用」を、琴平町社会福祉協議会は「障害者の自立支援のための機会や場の創出」を考えており、琴平町社会福祉協議会とJAや担当行政が結びつき、それぞれの課題解決のしくみとしかけを作り出し生まれたのが「ガリック娘（ガリックオイル）」です。

活動の効果

「ガリック娘」の生産・販売の過程を通じてのまちおこしが、地域との交流やつながりを促進することにもつながっています。

例えば、種まき作業に小学生が参加したり、商品ラベルデザインとネーミングを地元高校生が行い、町民がデザインを選定するようになりという工夫があります。また、学校給食でも使用されるようになり、地元高校でのレシピづくり・料理コンテストを行ったことで「ガリック娘」は、地元の方々にも愛される特産品となりました。今後は、にんにくの生産の場が障害者の就労の場としてだけでなく、地域・農業・人を結びつける交流の場となっていくことが期待されます。



事例8 多文化共生のまちづくり

～外国人への日本語学習支援、交流促進と居場所づくり～

日本語サークル「わ」の会

《活動日》

毎週土曜日 ほか

《活動場所》

主に、高松市男女共同参画センター

《活動者と対象》

活動者：日本語サークル「わ」の会ボランティアメンバー
対象：日本語を母語としない人たち

《主な活動》

- (1)日本語を母語としない人への日本語学習支援および生活情報の提供
- (2)子ども日本語学習サポート
- (3)異文化理解を目的とした交流会（お花見、料理教室など）実施・関連イベント参加
- (4)地域日本語支援活動に関する勉強会やボランティア活動のための研修



活動の目的と具体的内容

日本語サークル「わ」の会は、日本語を母語としない人たちの日本語の学習を手伝うボランティアグループです。毎週土曜日に開かれる「日本語フリークラス」では、「暮らしに必要な日本語を学びたい」「育児などの生活情報がほしい」「事務手続き等の相談をしたい」「就職・資格取得のための勉強をしたい」など、一人ひとりのニーズに応えられるような活動をしています。平成18年には、香川大学医学部大学院の留学生と一緒に「日本語サロン」を開始し継続的に取り組んでいます。

また、平成21年度からは高松市と協働して、小・中学校に出向いて放課後等に日本語学習支援を行う「子ども日本語サポートクラス」を実施したり、平成24年度には、外国人の方に季節の行事や習慣・生活情報を伝える「多言語交流会『マチのわ』」を開催したりするなど、市民レベルの支援活動をしています。

活動の効果

外国人住民の増加に伴い県内に様々な日本語教室が立ち上がり、日本語支援の動きが広がっています。「わ」の会のメンバーが、自身が暮らす地域周辺のグループ活動へも積極的に参加し、各地のグループ立ち上げに関わったり、活動・運営の応援をしたりすることで、問題解決のための相談をつなぐなどの連携ができています。

フリークラスをはじめ、地域に安心できる居場所があり、そこに行けば仲間がいるというつながりが広がり、多文化共生のまちづくりに寄与しています。

